

令和 8 年度インテリアプランナー試験

学 科 試 験

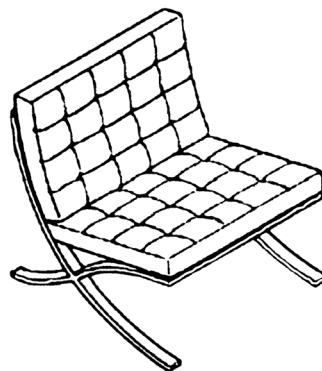
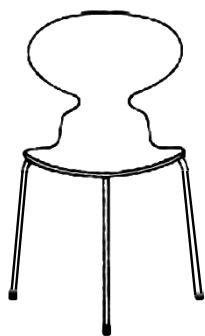
問 題 集

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

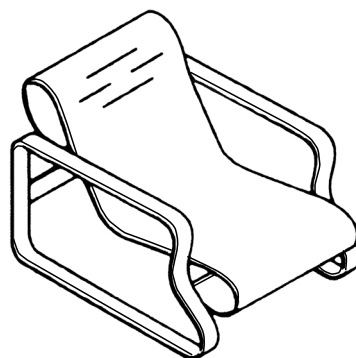
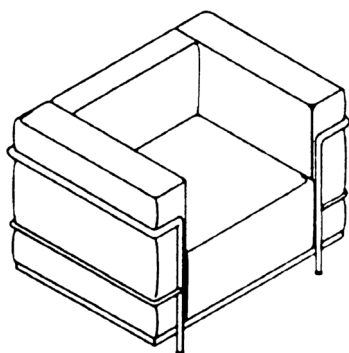
1. この問題集は、表紙を含めて**10枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四肢択一式**です。
4. **解答は**、各問題とも一つだけ**答案用紙の解答欄**に所定の要領ではっきりとマークして下さい。
5. 解答に当たっての留意事項は、下記の(1)～(3)のとおりです。
 - (1)**適用すべき法令**については、**令和 8 年 1 月 1 日**現在において施行されているものとします。
 - (2)建築基準法令に定める「構造方法等の認定」、「耐火性能検証法」、「防火区画検証法」、「区画避難安全検証法」、「階避難安全検証法」及び「全館避難安全検証法」の適用については、問題の文章中に**特に記述がない場合にあつては考慮しないもの**とします。
 - (3)地方公共団体の条例については、考慮しないものとします。
6. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます。**
(中途退出者については、持ち帰りを禁止します。)

〔No. 1〕 図に示す椅子とその作家名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。



1. アルネ・ヤコブセン (Arne Jacobsen)

2. チャールズ・イームズ (Charles Eames)



3. ル・コルビュジエ (Le Corbusier)

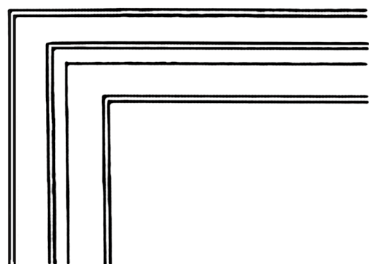
4. アルヴァ・アアルト (Alvar Aalto)

(注)No.1の肢1～肢4の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。

・肢1「インテリアデザイン教科書」(株式会社 彰国社)

・肢2～肢4「コンパクト建築設計資料集成 インテリア」(一般社団法人 日本建築学会)

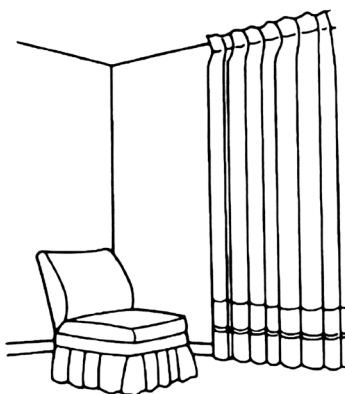
〔No. 3〕 インテリア計画の空間構成で用いられるリズム(律動)の図とその手法との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。



1. オポジション



2. ラディエーション



3. リペティション



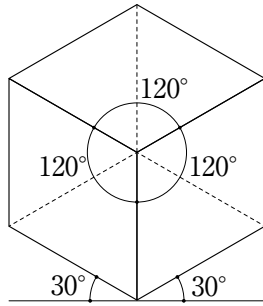
4. グラデーション

〔No. 4〕 増改築・改修に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

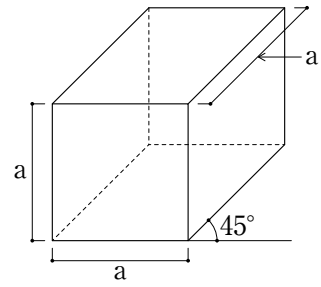
1. 発展途上国におけるコアハウジングは、土地と設備、寝室からなる最低限の住宅を政府が供給し、残りは居住者が資力に応じて自力で増改築する手法である。
2. スケルトン・インフィルは、建築物を構造体と内装・設備に分けて設計、建築する考え方であり、ライフスタイルの変化などに伴う設備、間取り等の変更に対応しやすい。
3. モデュラー・コーディネーションは、建築物の部分若しくは全体をあらかじめ組み立てておき、建設現場での組立て工数を減らすことである。
4. イタリアにおける建築物のレストアウロは、様々な職人との協働や廃れた伝統技術の復興を行うなど新旧が渾然一体となりつつも洗練された新しい空間を生み出す特徴がある。

(注)No.3の肢1～肢4の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。
・「インテリア大辞典」(一般社団法人 日本壁装協会)

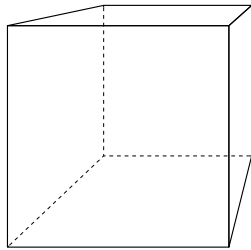
〔No. 5〕 投影図とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。



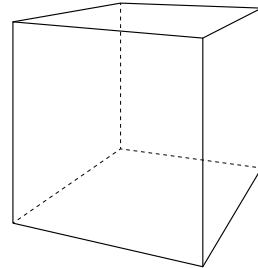
1. アイソメトリック投影図



2. キャビネット投影図



3. 一点透視投影図



4. 二点透視投影図

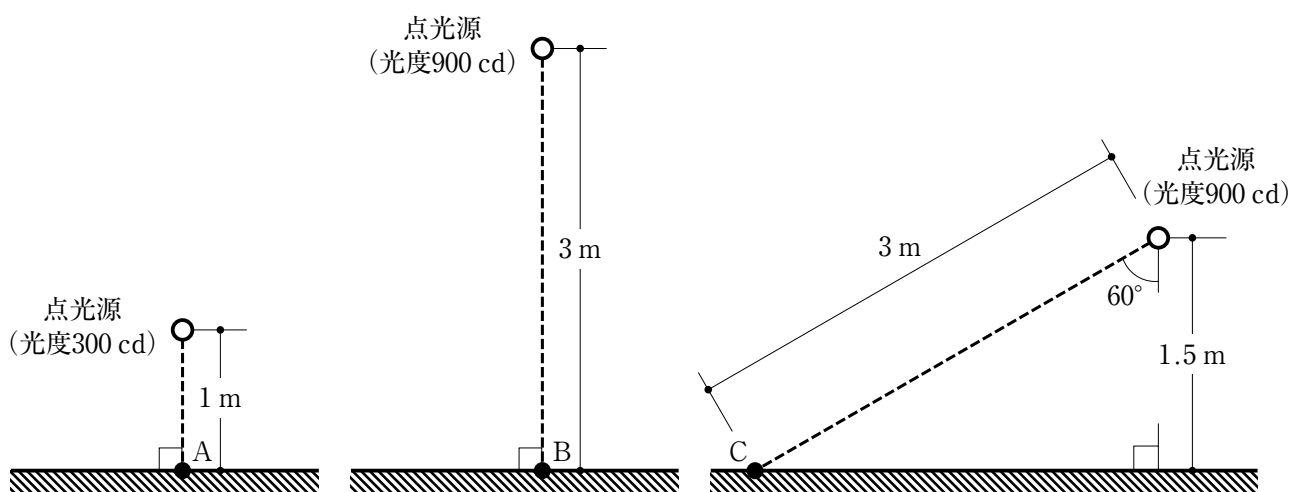
〔No. 6〕 「人間工学等に関する用語」と「インテリア計画に関する事項」との組合せとして、最も関係の少ないものは、次のうちどれか。

1. 黄変化視界 ————— サイン
2. ソシオファーガル ————— 椅子の配置
3. 歩行特性(左回り) ————— コンビニエンスストアの動線
4. 流動係数 ————— 天井の高さ

〔N o. 7〕 バリアフリーに配慮したインテリア計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高齢者が居住する住宅において、壁付コンセントの中心の高さを、床仕上げ面から 20 cm とした。
2. 高齢者が居住する住宅において、「玄関の出入口の^{くつずり}沓摺」と「玄関外側の床」との高低差を 2 cm とした。
3. 車椅子が支障なく回転できるように、廊下に 150 cm 角のスペースを確保した。
4. 車椅子使用者用便房内の洗面器の吐水口を、洗面器の手前縁から 30 cm の位置に設けた。

〔N o. 8〕 図のような点光源に照らされた受照面上の点 A、B、C の水平面照度の大小関係として、最も適当なものは、次のうちどれか。ただし、点光源の配光特性は一律なものとし、反射は考慮しないものとする。



1. $C > B > A$
2. $B = C > A$
3. $A > C > B$
4. $A > B > C$

〔N o. 9〕 室内の温熱環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 熱容量の大きい建築物においては、一般に、室温の変動が大きい。
2. 温熱環境の六要素は、「空気温度」、「相対湿度」、「気流速度」、「放射温度」、「代謝量」及び「着衣量」である。
3. 露点温度は、絶対湿度を一定に保ちながら空気を冷却した場合に、相対湿度が 100 % となる温度である。
4. グローブ温度は、周囲からの熱放射の影響を考慮した温度である。

〔No. 10〕 室内の音環境に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 室内騒音レベルの許容値をNC値で示す場合、その数値が小さくなるほど許容される室内騒音レベルは低くなる。
2. 子どもの飛び跳ねのような重量床衝撃源による床衝撃音については、カーペット等の柔らかい床仕上げ材を用いても、遮断性能の大幅な向上は期待できない。
3. 音圧レベルの等しい二つの音を同時に発生させた場合、同じ受音点での音圧レベルの大きさは、一つの音のみを発生させる場合より 6 dB増加する。
4. 同じ厚さの一重壁の場合、一般に、壁体の単位面積当たりの質量が大きいものほど音響透過損失は大きくなる。

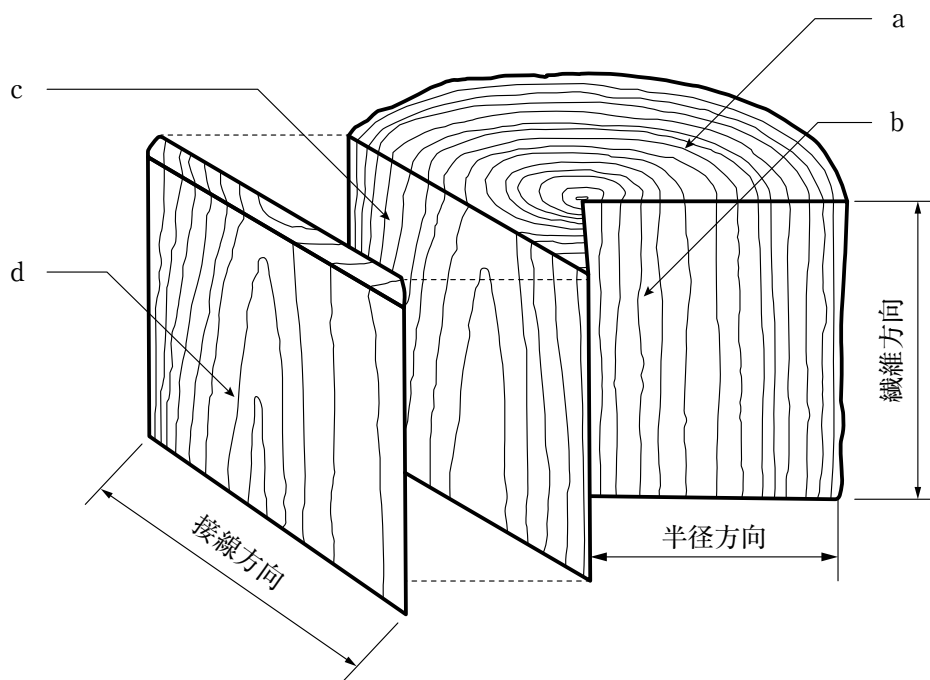
〔No. 11〕 室内環境等に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 窓に複層ガラスを用いると、共鳴周波数付近においては、同一面密度の単板ガラスより遮音性能が劣ることがある。
2. 東京(北緯 35 度)の冬至における終日の直達日射量は、南向きの窓より東向きの窓のほうが大きい。
3. 短波長成分を多く含む色温度の高い光を午前中に浴びることで、サーカディアンリズムを保つ効果が期待できる。
4. ライトシェルフは、その上面で反射した昼光を室内の奥に導くことから、室内照度の均斉度を高めることができる。

〔No. 12〕 インテリア計画のデジタル技術に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. BIM(Building Information Modeling)は、設計・施工・維持管理までのコストや工程、品質情報等すべてを統合したデータを活用して業務を進める手法であり、一般に、二次元モデルを使って表現される。
2. デジタルファブリケーションは、三次元モデルなどのデータをもとにした、ものづくり技術のことである。
3. コンピュータショナルデザインは、設計のプロセスにプログラミングを取り入れることで、効率化を図る手法のことである。
4. レンダリングは、三次元グラフィックスモデルとしてモデリングした形状に面を作る計算過程のことであり、立面図や室内展開図、透視図に陰影や質感、色彩を加えて完成された状態を表現する際に用いられる。

〔No. 13〕 図に示す木取りによる木材面の記号とその名称との組合せとして、最も適切なものは、次のうちどれか。



	a	b	c	d
1.	板目面	木口面	まさめ 柁目面	木裏
2.	まさめ 柁目面	板目面	木口面	木表
3.	木口面	まさめ 柁目面	板目面	木裏
4.	木口面	まさめ 柁目面	板目面	木表

〔No. 14〕 木造住宅の内装における「壁、床等の取合い」と「その部分に用いられる部材」との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 床の間の床と壁 ————— 雑巾摺ぞうきんずり
2. 壁と窓 ————— 膳板
3. 壁と天井 ————— 竿縁
4. 壁と床 ————— 幅木

〔No. 15〕 建具及び建具まわりに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 敷居は、出入口や窓などの開口部の下部に取り付ける横木のことである。
2. ドアクローザーは、開いた扉や取っ手が壁に直接当たって損傷しないように、床や幅木又は壁面上部に取り付けるものである。
3. 鴨居は、開口部の内法高の上部に取り付ける横木のことである。
4. フランス落しは、両開きの扉や窓において、錠を取り付けない側の建具を固定するために用いる上げ落しの金物のことである。

〔N o. 16〕 石材の仕上げや性質に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 本磨きは、水磨きをさらに細かく磨き、艶を出す仕上げである。
2. ジェットバーナーは、石の表面に水を散布しながらバーナーで焼き、凹凸に加工する仕上げであり、滑止めによく用いられる。
3. 大理石は、石灰岩が変成作用を受けてできた結晶質の岩石で強度が強く、磨くと美しい光沢、色、模様が得られ、酸にも強い。
4. 砂岩は、石英や長石などの砂粒が堆積し固結したものであり、吸水性が高く、耐摩耗性や耐久性に劣る。

〔N o. 17〕 カーテン及びブラインドに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. ベネシャンブラインドは、布を上下に開閉するもので、多様なスタイルがあり、布地の特徴を活かした空間を演出することができる。
2. パーチカルブラインドは、水平のレールに多数の細長い縦型ルーバーを吊り下げて、角度調節や開閉をできるようにしたものである。
3. タッセルは、カーテンを開口部の脇に束ねて留めておくためのもので、カーテンの共布や組紐等で作るものがある。
4. 室内に外光を取り込むことを防ぐためのカーテンの遮光等級は、遮光2級より遮光1級のほうが遮光性能が高い。

〔N o. 18〕 畳に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 畳寄せたたみよは、壁面の下部と畳との取合いにできる隙間を納める細い横木のことである。
2. 畳床たたみどこは、稲わら畳床、稲わらサンドイッチ畳床、建材畳床に分けられる。
3. 畳縁たたみべりは、家具の移動や重みで畳面を傷めないように、和室で使用する椅子・机などの脚先端に取り付ける薄板である。
4. 畳表たたみおもては、畳の表層に張る敷物で、乾燥したいぐさ等をよこ糸にし、麻糸や綿糸などをたて糸にして織り上げたものである。

〔N o. 19〕 サイン計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 蓄光式避難誘導システムに用いる蓄光式の安全標識と誘導ラインは、誘導灯及び誘導標識に追加して設置されるものである。
2. 外国人等のために宿泊施設の案内表示等に用いられる図記号(ピクトグラム)は、「意味するものの形状を用いて、その意味の概念を理解させる記号」である。
3. JISで定める安全色のうち「黄色」は「注意警告」等の意味である。
4. 視覚障害者誘導用ブロックとして用いる線状ブロックは、注意喚起や警告の目的で用いるものである。

〔N o. 20〕 照明に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. コーブ照明は、折上げ天井などの隅に光源を隠して、天井面を明るくする方式である。
2. コーニス照明は、幕板状の天井回り縁の内側に光源を隠して、壁面やカーテンなどを明るくする方式である。
3. バランス照明は、天井の全面又は一部にルーバーを張り、その上部に光源を配置した照明方式である。
4. 光天井照明は、天井の全面又は一部に拡散透過性のある素材を用い、その上部に光源を配置し、天井面を光らせるようにする照明方式である。

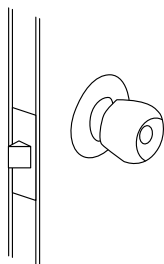
〔N o. 21〕 設備機器に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 半密閉式ガス機器は、燃焼用空気を屋内から採り、排ガスを屋外に排出する方式の機器である。
2. CO₂冷媒を用いたヒートポンプ給湯機は、排ガス中の潜熱を回収することで給湯効率を高めた機器である。
3. 屋内に設置したガスこんろは、開放式ガス機器である。
4. 全熱交換器は、空調の「排気中の全熱」と「取入れ外気中の全熱」とを交換させる装置である。

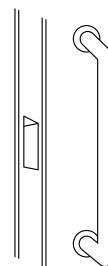
〔N o. 22〕 金属の表面処理及び加工に関する名称とその説明との組合せとして、**最も不適当な**ものは、次のうちどれか。

1. 鏡面 ^{きやうめん} ————— 光が均一に反射するように磨き上げた光沢のある仕上げ
2. ヘアライン ————— 単一方向への研磨により、極細のラインを生成する艶消しの仕上げ
3. 緑青 ^{ろくしょう} ————— 銅板が空気中に含まれる二酸化硫黄や硫化水素に反応して形成される青緑色の錆 ^{さび}
4. パンチングメタル ————— 金属板に切れ目を入れて広げ、菱形や亀甲型に加工したメッシュ状のもの

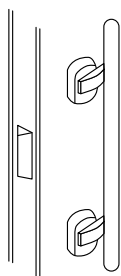
〔No. 23〕 建築物における避難計画を検討するうえで、多くの利用者が使いやすい開き戸の取っ手として、**最も不適当なものは、次のうちどれか。**



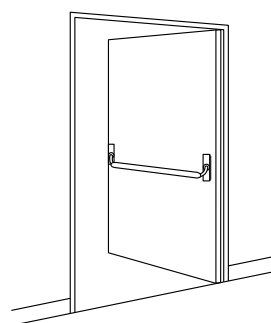
1. 握り玉



2. 棒状



3. プッシュプルハンドル



4. パニックバー

〔No. 24〕 CPTED(防犯環境設計)の4つの基本的な考え方に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 「領域性の確保」は、部外者が侵入しにくい雰囲気地域を形成するために、住民相互の活動や交流を促すことである。
2. 「接近の制御」は、人が容易に敷地や建築物に接近することを防ぐために、門扉、フェンス等で敷地の境界を明確にすることである。
3. 「監視性の確保」は、人の目が周囲に行き届くような環境をつくり侵入を未然に防ぐために、街路や窓からの見通しを確保するとともに、屋外の照明機器を改善することである。
4. 「対象物の強化」は、1枚の割られた窓ガラスを放置していると、街全体が荒廃してしまうため、割れた窓の修理や落書きなどの軽微な犯罪の取締まりを強化することである。

〔N o. 25〕 インテリア工事の施工管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 塗料等の化学製品を使用したので、安全データシート(SDS)を常備し、記載内容の周知徹底を図り、作業者の健康・安全の確保及び環境保全に努めた。
2. 板ガラスは、破損・汚損のないように注意して立置きにして保管した。
3. 石綿建材除去事業に伴って生じた飛散するおそれのある石綿を、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく特別管理産業廃棄物として処理した。
4. 合成高分子系床タイルは、乾燥した室内に直射日光を避けて立置きにして保管した。

〔N o. 26〕 壁及び天井におけるせっこうボードの施工方法に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. セっこうボードの重ね張りにおいて、上張りとは下張りのジョイントが同位置となるようにした。
2. 下地面がコンクリートとなる「せっこうボードのせっこう系直張り用接着剤による直張り工法」において、張付け時の室温が10℃以上に保たれていることを確認した。
3. 洗面所内の天井におけるせっこうボードの張付けにおいて、ステンレス鋼製の小ねじを使用した。
4. セっこうボードの鋼製下地への張付けにおいて、ドリリングタッピンねじを使用した。

〔N o. 27〕 インテリアの塗装工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 鉄鋼面への塗装において、合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)とした。
2. 塗装場所の相対湿度が85 %であったので、塗装作業は行わなかった。
3. 木質系素地面への塗装において、素地の含水率が18 %以下であったので、塗装を行った。
4. 冬期におけるコンクリート面への塗装において、コンクリート素地の材齢による乾燥期間の目安を28日間とした。

〔N o. 28〕 建具・ガラス工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 合わせガラスは、破損しても破片が飛散しにくいので、バルコニーにおける手すりの面材に使用される。
2. 強化ガラスは、フロート板ガラスの3～5倍の衝撃強さを有し、割れても破片が細粒状になるので、大きなけがになりにくい。
3. 出入口のアルミニウム製建具を取り付けるために、あらかじめ沓摺^{くつずり}の裏面にモルタルを充填する。
4. 型板ガラスは、板ガラスの片面に砂や金属ブラシなどでつや消し加工を行ったもので、光を通し、視線を遮る機能がある。

〔N o. 29〕 インテリアの各種工事に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 天井に点検口を取り付けるに当たり、軽量鉄骨天井下地の野縁や野縁受けを切断したので、その開口部を補強した。
2. 吹付け硬質ウレタンフォームによる断熱材現場発泡工法において、壁面の吹付け厚さの確認は、確認ピンを用いて10 m²につき1箇所以上について行い、確認ピンはそのまま存置した。
3. 床の改修工事において、タイルカーペットは特記がなかったので、粘着剥離形接着剤を使用し、市松張りとした。
4. 軽量鉄骨壁下地材の錆止め塗料塗りは、現場での溶接を行った箇所には行ったが、高速カッターによる切断面には行わなかった。

〔N o. 30〕 インテリアの各種工事に用いる工法・工具に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. タイル工事に用いるヴィブラートは、タイル密着張りににおいて、タイル表面に振動を与え、接着性を高めるための工具である。
2. 石工事に用いるびしゃんは、石の表面を荒びしゃん、細びしゃん等に仕上げるための工具である。
3. コンクリート下地面に施す壁紙の直張り工法では、接着剤に壁紙施工用でん粉系接着剤を用いる場合、施工に先立ち、素地を十分に湿潤させる。
4. フローリング張りの工法には、大きくは釘留め工法と接着工法がある。

〔N o. 31〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(七会)連合協定「工事請負契約約款」(令和7(2025)年12月改正)に照らして、**最も不適当なものはどれか。**

1. 主任技術者(又は監理技術者若しくは監理技術者補佐)、専門技術者及び現場代理人は、これを兼ねることができる。
2. 受注者は、契約の履行報告につき、設計図書等に定めがあるときは、その定めに従い発注者に報告しなければならない。
3. 支給材料又は貸与品の受渡し期日は工程表によるものとし、その受渡し場所は、設計図書等に別段の定めがないときは、工事現場とする。
4. 工事中に契約の目的物の一部を発注者が部分使用する場合につき、法令に基づいて必要となる手続は、発注者が行い、手続に要する費用は、受注者の負担とする。

〔N o. 32〕 セッコウボードに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 強化セッコウボードは、芯材のセッコウに無機質繊維等を混入したもので、防火性が高い。
2. 化粧セッコウボードは、セッコウボードの表面に化粧を施したもので、天井の仕上げ材等に用いられる。
3. シージングセッコウボードは、通常のセッコウボードに比べて、吸水時の強度低下が大きい。
4. 普通硬質セッコウボードは、耐衝撃性に優れているので、廊下の壁下地等に用いられる。

〔N o. 33〕 ガラスに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 合わせガラスは、2枚以上の板ガラスに合成樹脂の中間膜を挟み全面接着したものである。
2. 低放射複層ガラス(Low-E 複層ガラス)は、中空層側のガラス面に特殊な金属膜をコーティングしたものであり、一般に、防火ガラスとして使用される。
3. 網入板ガラスは、金属製の網をガラス内部に挿入している板ガラスであり、破片の飛散を防止し、防火設備用として使用できる。
4. 熱線吸収板ガラスは、日射エネルギーを吸収するので、冷房負荷の軽減効果がある。

〔N o. 34〕 材料に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 吹付け硬質ウレタンフォームは、接着性(自着性)があるので、接着剤が不要な断熱材である。
2. 集成材は、ひき板、小角材等をその繊維方向を互いにほぼ平行にして、厚さ、幅及び長さの方向に集成接着した材料である。
3. 花こう岩は、耐摩耗性・耐久性に乏しく、主にインテリアで用いられる。
4. コンポジションビニル床タイルは、温度変化や湿気による伸縮は少ないが、耐薬品性に劣る。

〔N o. 35〕 用語に関する次の記述のうち、**誤っている**ものはどれか。

1. 障害者支援施設の用途に供する建築物は、「特殊建築物」である。
2. 建築物の周囲において発生する通常の火災による延焼を抑制するために当該建築物の外壁又は軒裏に必要とされる性能を、「防火性能」という。
3. 「主要構造部」とは、壁、柱、床、はり、屋根又は階段をいい、構造上重要でない最下階の床は含まない。
4. 建築物の「主要構造部」のうち、防火上及び避難上支障がないものとして政令で定める部分を、「特定主要構造部」という。

〔No. 36〕 内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法に**適合しない**ものはどれか。ただし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当しないものとし、火災が発生した場合に避難上支障のある高さまで煙又はガスの降下が生じない建築物の部分はないものとする。

1. 地階に設ける物品販売業を営む店舗において、床面積の合計が 150 m^2 の売場の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。
2. 内装の制限を受ける特殊建築物の居室から地上に通ずる主たる廊下、階段その他の通路の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。
3. 木造2階建て、延べ面積 90 m^2 の住宅の一部が自動車車庫(当該用途に供する部分の床面積の合計が 15 m^2)である場合、自動車車庫の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
4. 耐火建築物である平家建て、延べ面積 $3,500\text{ m}^2$ の美術館において、展示室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。

〔No. 37〕 防火区画等に関する次の記述のうち、建築基準法上、**誤っている**ものはどれか。ただし、自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとする。

1. 地上2階建ての建築物で、1階の一部を患者の収容施設がある診療所、その他の部分を事務所の用途に供するものにおいては、診療所の部分とその他の部分とを防火区画しなければならない。
2. 学校の用途に供する建築物の当該用途に供する部分(天井は強化天井でないもの)については、原則として、その防火上主要な間仕切壁を準耐火構造とし、小屋裏又は天井裏に達せしめなければならない。
3. 耐火建築物である映画館の客席部分でその用途上やむを得ない部分については、その床面積の合計にかかわらず、防火区画しなくてもよい。
4. 地上15階建ての共同住宅の15階部分で、当該階の床面積の合計が 300 m^2 のものは、原則として、床面積の合計 100 m^2 以内ごとに防火区画しなければならない。

〔No. 38〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、**誤っている**ものはどれか。

1. 屋内に設ける避難階段の階段室の屋内に面する壁に窓を設ける場合においては、その面積は、各々 1 m^2 以内とし、かつ、所定の防火設備ではめごろし戸であるものを設けなければならない。
2. 非常用エレベーターを設置している建築物には、非常用の進入口を設けなくてもよい。
3. 建築基準法施行令第120条の規定による直通階段で屋外に設けるものは、準耐火構造のうち有効な防腐措置を講じたものであっても、木造としてはならない。
4. 避難階が1階である2階建ての共同住宅で、2階における居室の床面積の合計が 300 m^2 であるものには、2階から避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を設けなければならない。

〔N o. 39〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法に**適合しない**ものはどれか。

1. 浴室(常時開放された開口部はないものとする。)には、密閉式燃焼器具のみを設けたので、換気設備を設けなかった。
2. 階段(高さ 3 m の屋内の直階段)の両側に側壁を設けたので、手すりを設けなかった。
3. 病院における床面積 50 m² の入院患者用談話室には、採光のための窓を設け、その採光に有効な部分の面積を 6 m² とした。
4. 階段に代わる高さ 1.2 m の傾斜路に幅 10 cm の手すりを設けたが、当該傾斜路の幅の算定に当たっては、手すりはないものとみなした。

〔N o. 40〕 建築設備等に関する次の記述のうち、建築基準法上、**誤っている**ものはどれか。

1. 換気設備を設けない住宅の居室には、換気のための窓その他の開口部を設け、その換気に有効な部分の面積は、その居室の床面積に対して、 $\frac{1}{50}$ 以上としなければならない。
2. 階数が 3 以上で延べ面積が 500 m² を超える建築物において、避難階又は避難階の直上階若しくは直下階の居室で避難上支障がないものは、非常用の照明装置を設けなくてもよい。
3. スポーツの練習場における建築基準法施行令第 116 条の 2 第 1 項第二号の規定に該当する窓その他の開口部を有しない居室には、排煙設備を設けなくてもよい。
4. 非常用エレベーターの乗降ロビーの天井及び壁の室内に面する部分は、仕上げを不燃材料でし、かつ、その下地を不燃材料で造らなければならない。

〔N o. 41〕 防災物品に関する次の記述のうち、消防法上、**誤っている**ものはどれか。

1. 地上 4 階建て(高さ 15 m)の小学校で使用する暗幕は、防災物品でなくてもよい。
2. 地上 20 階建て(高さ 60 m)の共同住宅の住戸で使用するカーテンは、防災物品でなくてもよい。
3. 地上 7 階建て(高さ 25 m)の事務所の従業員専用食堂で使用する布製ブラインドは、防災物品でなくてもよい。
4. 工事中の建築物で使用する工事用シートは、防災物品でなければならない。

〔N o. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法令で定めるものを除く。)で**足りる**ものはどれか。

1. 幼稚園から保育所に変更
2. 共同住宅から消防法施行令別表第一(5)項イに該当する民泊に変更
3. 倉庫から物品販売業を営む店舗に変更
4. 工場からテレビスタジオに変更

〔No. 43〕 次の記述のうち、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」上、誤っているものはどれか。

1. 延べ面積 500 m² の老人福祉センターは、「特別特定建築物」に該当しない。
2. 建築物移動等円滑化基準においては、不特定かつ多数の者が利用し、又は主として高齢者、障害者等が利用する階段のうち、主たる階段については、原則として、回り階段としてはならない。
3. 移動等円滑化経路を構成する廊下等の幅は、120 cm以上としなければならない。
4. 共同住宅を建築しようとする建築主等は、当該建築物を建築物移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

〔No. 44〕 次の記述のうち、関係法令上、誤っているものはどれか。

1. 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」上、特定建設資材を用いた建築物に係る修繕工事で、その請負代金の額が2億円であるものの工事の受注者は、原則として、分別解体等を行わなければならない。
2. 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」上、特定既存耐震不適格建築物の所有者は、当該建築物について耐震診断を行い、その結果、地震に対する安全性の向上を図る必要があると認められるときは、耐震改修を行うよう努めなければならない。
3. 「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」上、住宅の建築をしてその構造及び設備を長期使用構造等とし、自らその建築後の住宅について長期優良住宅としての維持保全を行おうとする者は、長期優良住宅建築等計画を作成し、所管行政庁の認定を申請することができる。
4. 「建設業法」上、建築一式工事にあつては、工事1件の請負代金の額が1,500万円に満たない工事又は延べ面積が200 m² に満たない木造住宅工事のみを請け負うことを営業とする者は、建設業の許可を受けなくてもよい。

〔No. 45〕 図書館の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 開架フロアにおいて、車椅子使用者同士がすれ違えるように、書架間の通路の幅員を1.8 mとして書架を配置した。
2. 視聴覚障害者への資料の朗読を行う部屋として、対面朗読室を設けた。
3. 書籍等の貸出し手続きのし忘れ、無断持出しを防止するため、BDS(Book Detection System)を設置した。
4. 新聞や雑誌などを気軽に読む空間として、レファレンスルームを設けた。

〔N o. 46〕 建築のマネジメントに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. ファシリティマネジメント(FM)は、建築物が果たすべき機能や性能を確保しつつ合理化を行い、コストを節減することで、建築物の価値を高める手法である。
2. プロジェクトマネジメント(PM)は、建設工事の設計施工業務に限らず、プロジェクト全体のマネジメントを建築主の立場に立って総括的に行うことである。
3. コンストラクションマネジメント(CM)は、コンストラクションマネージャーが工事を分担する施工会社の間に立って、コストの低減、工期短縮など総合的な建設管理を行うことである。
4. デザインビルド(DB)は、建設会社が単独又は複数の組織で設計者やエンジニアと協力し、一つのグループとして建築物の設計及び施工を一括して受注する方式である。

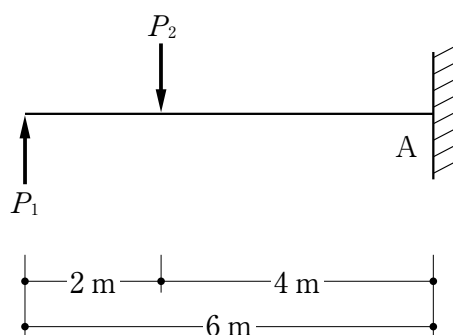
〔N o. 47〕 日本の住宅史に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 座敷は、畳が部屋に敷き詰められるようになり、畳敷きの部屋の名称になった。
2. 寝殿造に茶室建築の特徴が取り入れられて、数寄屋造となった。
3. 欄間^{らんま}は、平安時代の仏堂に見られるようになり、近世には彫刻を施されたものが現れ、その後一般住宅に用いられるようになった。
4. 書院造の接客用の部屋等では、床の間、違い棚、付け書院等が設けられた。

〔N o. 48〕 空気調和設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 変風量単一ダクト方式は、空調機によって冷暖房や換気を行う空調方式であり、室内温度によって送風量を変化させる。
2. ファンコイルユニット方式は、冷媒を使用して冷暖房を行う空調方式であり、マルチ型では屋外機1台に屋内機が複数台設置される。
3. タスク・アンビエント空調方式は、執務者のデスクまわりの居住域とそれ以外の周辺空間に分けて空調を行う方式である。
4. 放射空調方式は、室内の床・壁・天井などを加熱又は冷却し、人体との間での放射熱交換により冷暖房を行う方式である。

〔N o. 49〕 図のような荷重を受ける片持ち梁において、A 点に曲げモーメントが生じない場合の荷重をそれぞれ P_1 、 P_2 としたとき、それらの比 ($P_1 : P_2$) として、正しいものは、次のうちどれか。



	P_1 : P_2
1.	1 : 3
2.	3 : 2
3.	2 : 3
4.	2 : 1

〔N o. 50〕 コンクリート工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 型枠のせき板の材料として合板を用いる場合は、特記がなければ厚さ 12 mm とする。
2. 型枠は、支障のない限り再使用することができる。
3. 軽量コンクリートにおける人工軽量骨材の最大寸法は、30 mm とする。
4. コンクリート打込み後、コンクリート表面を水密シートで覆い、コンクリートの養生を行う。

